

～患者団体向けインフォメーション・セッションを開催～

＜「患者目線で考える“医療制度のあり方”とは？」をテーマに基調講演とディスカッションを実施＞
疾患や患者団体ごとに異なる各医療制度に対する問題意識を共有し、共通する課題を浮き彫りに

日時：2015年8月20日（木曜日）

場所：東京・京橋

PhRMA は、日本の患者団体の方々への支援活動の一環として、去る 2015 年 8 月 20 日（木）、本年度 1 回目となる「インフォメーション・セッション」を開催しました。

今回は、日本の医療制度を取り巻く課題について、疾病領域の異なる患者団体の皆さまに、それぞれの視点から意見交換・情報交換を行って頂くことにより、疾患ごとに抱える課題の違いや共通する課題を浮き彫りにすることができるのではないか、さらには、共通する課題に対しては、今後相互に協力し、何か取り組んでいくことはできないだろうか、という発想から、テーマを「患者目線で考える“医療制度のあり方”とは？」とし、今後のインフォメーション・セッションで議論を深めていきたいと考えるテーマを参加者の皆さまに検討していただき、疾病領域が異なる患者団体の皆様が集う PhRMA インフォメーション・セッションの特徴を生かしたプログラムといたしました。

■講演 講師：権文 善一氏（慶應義塾大学 商学部 教授）

『超少子化高齢化社会を見据えた医療改革 病院完結型医療から地域完結型医療へ』

はじめに、基調講演として、医療政策・医療経済に造詣の深い権文善一先生に、「病院完結型医療から地域完結型医療へ」というテーマのもと、現在進行中の医療改革に関して、「先進国の中で人口当たりの病院病床数が圧倒的に多い日本だけが、1980 年以降も病床が増えていたが本当はどうあるのが望ましいか。なぜ日本が他の国に比べて特異な動きをしているのか。」等、現在の日本の社会保障制度が抱えている問題点や、医療制度をどう改革していく必要があるのかについてご講演いただきました。

講演中、権文先生の言葉にじっと耳を傾ける様子が多く見受けられ、質疑・応答では多くの質問が投げかけられ、参加者の皆さまの関心の高さがうかがえました。

講師：権文 善一先生



講演風景



■グループディスカッション～結果発表・まとめ

グループディスカッションでは5つのグループに分かれ、今後インフォメーション・セッションで、議論を深めていきたいと考える医療制度や課題、テーマについてディスカッションを行っていただきました。どのグループも、多くのテーマが候補に挙がり、活発なディスカッションが繰り広げられました。

ディスカッション後は、各グループから、今後話し合っていきたいと考えるテーマを発表していただきました。中には、テーマを絞りきれない程議論が白熱したグループもあり、参加者の皆さまの問題意識の高さが表れた結果となりました。

グループディスカッション風景

Aグループ



Bグループ



Cグループ



Dグループ



Eグループ



発表風景



今回は、20 団体、27 名の患者団体の方々に参加され、参加者の方々からは、「医療政策危機の実情について頭を整理することができました。」、「地域医療に関心があったのでとても良い学びの機会となりました。」、「他の患者団体の方と充実したディスカッションができました。」、「様々な患者団体の意見を聞くことができ、大変勉強になりました。」等、多くのコメントが寄せられました。

今後、グループディスカッションの結果、課題として挙げられたテーマの中から、インフォメーション・セッションで取り上げるテーマを検討し、次回以降の企画につなげてまいります。